

病害虫発生予察指導情報

(ナシ・黒星病)

平成29年4月10日
鳥取県病害虫防除所

1. 情報の内容

向こう1か月の気象予報（4月6日発表）から、4月の気象条件はナシ黒星病の発生を助長すると予想されます。開花時期は平年並に近づくことが予想されていますので、適期防除を心がけましょう。また、防除暦に従った防除が実施できなかった場合や散布間隔が長くなる場合には追加防除を行ってください。

2. 情報の根拠

- (1) 昨年の発生量がやや多かったことから、罹病落葉などの越冬伝染源もやや多いことが見込まれる。
- (2) 向こう1か月の気象予報によると平均気温は平年に比べて高く、降雨量は平年並～多いと予想されており、ナシ黒星病菌の感染条件である15～20℃で9時間以上の濡れが継続する条件が多くなると見込まれる。

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 4月に降雨日が多い年などは、重点防除期に防除を行うことができず、本病の発生量が増加した事例がある。重点防除期である、開花始め・交配終了後・落花期の防除を徹底する。
- (2) 防除は、各地域の防除暦に従って実施する。
- (3) 二十世紀ナシの開花予測日は、1回目予測では4月22日頃（3月10日発表）であったが、5回目予測では4月17日頃（4月7日発表）と5日前進し、平年並となっている（平年：4月16日）。そのため、開花予測に合わせて防除時期を遅らせていた園では、防除時期を適期に戻す。
- (4) 赤ナシ等では、開花始めにEBI剤を散布ができなかった場合、授粉終了後にEBI剤を追加散布する。また、散布間隔が長くなる（10日程度）と見込まれる場合は、ベルコートフロアブル1，500倍液、チウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500倍液、有機銅水和剤（キノンドーフロアブル又はドキリンフロアブル）1，000倍液などを追加散布する。
- (5) ナシ黒星病の花そう基部病斑は開花期以降に見つけやすくなるので、基部が黒い花そうは見つけ次第直ちに切除し園外処分する。4月下旬以降は、葉や幼果等での発病部位を切除し園外処分する。